

## 2021年 第12号 ご挨拶

今年も年の瀬を迎えました。世界経済は新型コロナウイルス感染症の衝撃から徐々に修復に向かっていると云えます。中国は感染拡大を効果的に管理し、経済も昨年のプラス成長に引き続き、今年も持続的な回復傾向を維持しました。2022 年を展望すると、感染が徐々にコントロールされるにしたがって、マクロ政策はより柔軟で的確なものになり、中国経済は回復を維持し、外需からより多くの内需駆動への転換で成長が牽引されていくと予想されています。私たちは中国経済の成長率は今年が 8.0%、2022 年は 5.2%と予想しています。また KPMG のグローバル CEO 調査でも 62%の CEO は世界経済の成長見通しに自信を示しており、コロナ拡大前と同水準まで回復すると見えています。回復後の経済について行くためにも DX 及び GX にどのように適応していくかがキーになると考えます。また、2022 年は国境を跨いだ人の往来の自由度が回復し、対面での交流の機会が増えることを願っています。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

### 1. 2022 年マクロ経済の十大趨勢の展望

- 1) 新型コロナウイルス感染症と感染予防対策は依然として景気回復のペースの決定的な要因
  - 2) CPIとPPIとの格差が縮小し、中国のインフレ圧力は全体的に制御可能に
  - 3) 消費回復が続き、新国産品の台頭が加速
  - 4) 科学技術革新およびグリーン・トランスフォーメーション（GX）を巡る製造業投資が急成長
  - 5) 不動産規制が続き、市場・経済情勢の安定化がコアな政策目標
  - 6) 輸出の伸びが鈍化し、貿易黒字が縮小
  - 7) 外商による直接投資が高水準で推移し、対外直接投資が着実に成長
  - 8) ESG への注目度が高まり、CO2 削減措置の組織・制度の一層強化
  - 9) サプライチェーン構築において、レジリエンスとリスク対応力をより重要視
  - 10) 世界経済は、国・地域によってその景気回復が異なる
- > [全文はこちら](#)（中国語）

### 2. 水平分業は垂直統合モデルを席卷するのか？

鴻海科技集団が自動車業界での存在感を強めています。ステランティス、吉利汽車、裕隆汽車といったプレイヤーと手を組み合併会社を設立、さらにポッシュやコンチネンタルといった従来の自動車産業におけるメガサプライヤー、FISITA といった国際自動車連盟、さらにアーム、寧徳時代新能源科技（CATL）、マイクロソフト、アマゾン、上海蔚来汽車（NIO）といった新勢力を巻き込みながら、MIH（Mobility in Harmony）という EV に重点を置いたプラットフォーム構築に向け

たコンソーシアムを設立しました。すでに 1,700 社を超えるサプライヤーが参集しており、その中には、自動車業界に部品を供給してきた日系サプライヤーも含まれています。同様に、マグナも、ソニーや北京汽車集団（BAIC）の EV の開発・生産への協力や LG との EV パワトレ開発の合併会社設立など、自動車業界における EV 受託製造基盤としてのポジショニング強化に邁進しています。

> [全文はこちら](#)（日本語）

### 3. KPMG グローバル CEO 調査 2021

KPMG は世界の主要企業の CEO を対象とした年次の調査を継続して実施しています。第 7 回目となる「KPMG グローバル CEO 調査 2021」は、2021 年 7 月から 8 月に、11 カ国 11 業界の CEO 1,325 名（うち日本企業 100 名）に対して実施し、パンデミックを経た世界の CEO の将来見通しや戦略、意識等の変化に関する分析をまとめています。本調査では、世界のグローバル企業の CEO にインタビューを行っており、日本からは株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ社長兼グループ CEO の亀澤宏規氏にご参加いただきました。また、本レポートでは、日本企業の CEO 100 名の回答について、グローバル全体の傾向との差異や、過年度からの推移に関する分析結果をあわせて報告しています。

> [全文はこちら](#)（日本語）

### 4. CFO サーベイ 2021

今回の調査では、経営課題として「SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）は最優先課題であり事業戦略の前提として位置付けている」と回答した企業が 32%であった一方、「影響を図りかねているため様子見」と回答した企業は 12%であり、2つの回答群の間でサステナビリティ課題に対する意識や対応状況に大きな差が見られました。例として、SX 推進における課題として、前者では「SX を実現するための戦略の策定（29%）・実行（30%）」が挙げられ、すでに具体的なアクションへ視点が進んでいるのに対して、後者では「サステナビリティ関連課題の把握と評価（62%）」との回答が目立ちました。経営課題としての SX のプライオリティを高めることが鍵であり、その位置付けにより SX 推進のスピードに差が生じると推察され、結果として中長期的な企業価値へ影響すると想定されます。今回の調査の結果、SX を推進し中長期的な企業価値を高めていくために、CFO は「価値創造のパートナー」、「変革のイネーブラー」、「企業価値のプレゼンター」の 3 つの役割を果たすことが求められると明らかになりました。

> [全文はこちら](#)（日本語）

#### <ご参考> COVID-19 対応に関する情報提供

こちらのサイトに関連情報を掲載しております。

- 携手战“疫”（中国語）[資料はこちら](#)
- Business Continuity Insights（英語）[資料はこちら](#)
- 新型コロナウイルスがビジネスに与える影響（KPMG ジャパン）[資料はこちら](#)

Wechat でも日々情報発信をしておりますので、是非ご登録頂けると幸いです。



#### Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: [gjpmarkets.china@kpmg.com](mailto:gjpmarkets.china@kpmg.com)

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+86(21)22122247)（日本語）